

令和 6 年度 学校運営協議会評価報告書 2

鳥取県立倉吉養護学校
 学校長 門脇 由子

評 価 日	令和 7 年 2 月 2 8 日 (金)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策
1 重点目標の達成状況について ・自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成」について取り組まれた結果、倉吉養護学校の児童生徒が昨年度とどのように変容したのかをお教えいただきたい。		・A部門では、主体的に取り組む子どもの姿が見られた。B小では、すべての先生方が子ども表出や変容を感じ、個別の指導計画を元にして段階的な成長を促している。B中では、大人が代弁し、表出を助けることで子ども同士が関わるが深まった。B高では、昨年度は周りの人とのやりとりを中心に、今年度はそれに加えて、なぜ考えたのかという理由を伝えることもねらって取り組んだ。生徒同士の伝え合う姿がみられた。
2 目標達成のための取組結果について ・多忙な日々の中、他の学部と連携し、教職員間で有効な支援ツール、教材、教具等についての情報共有や共通理解等を行うなどいろいろ工夫してあり、評価できる。 ・教務部はスリムな評価のシステムの構築を目指して他校のものを参考にし、意識できる環境を整え、学習指導要領について、学校用の個別の指導計画の新書式の完成を年内に終え完成し整備してある。業務カイゼンにもつながる取り組みである。		・評価していただいた点をふまえ、今後の教育実践をいかしたい。
3 具体目標の達成状況について ・健康教育部では歯・肥満傾向・性に関することは、保護者との連携が必ず必要である。保護者へ日々の管理の大切さを意識できるよう伝えることが大きく改善につながると思う。 ・情報教育部では、1人1台端末の整備が十分ではないとあるが、なぜか。		・今後も各家庭との連携を深めていきたい。 ・1人1台端末の台数が整備されていない。令和7年

・端末の持ち帰りを検討については、授業と家庭学習をつなぎ、家庭での日常の学習ツールとして活用するためにも必要と考える。細かいルール決めやゲーム、動画視聴など学習とは直接関係の少ない活用になり得る問題等、難しい課題は多々あるが、まずは、試験的に持ち帰る取り組みが進んでほしい。 4 目標達成のために取り組んだ具体方策について ・キャリア教育部で5年ぶりの集合型の会の開催とのこと、本当に大変だったと思う。保護者にとって、とても重要な会であるが、今年度の参加者出席率は、どのくらいか。 5 その他 ・先生方が丁寧に子どもたちに関わっており、頑張っている様子は自己評価表現からもわかる。ただ、そのことを保護者の方がどのように捉えているのかが大切である。保護者アンケート結果をみると、昨年度と比較して、学習指導の項目の中で評価が下がっている。保護者の理解を促す必要がある。成果・変容を上手に伝えてほしい。	度に整備される予定である。 ・現在、端末を家庭に持ち帰っている状況がある。しっかりとルールを決め、家庭とも連携しながら、今後とも取り組んでいきたい。 ・中部福祉セミナーは、50名の保護者が参加し、参加率は45.5%である。先輩保護者に学ぶ会は、45名、保護者対象視察研修は20名の参加であった。 ・大事な視点であるので、保護者へ成果や子どもの変容を伝えていく方法を工夫していきたい。
---	---